



TBS テレビ 2013 年度入社式

4月1日午前10時から、TBSテレビの2013年度入社式が行われ、井上会長、石原社長、ほか幹部が出席、新入社員の門出を祝福しました。

■ 新入社員数

24名(アナウンサー3名、技術4名、一般17名)

■ 石原社長訓話

皆さん、入社おめでとうございます。TBSの将来を担う、大いに可能性を秘めた皆さんを、TBSの新しい仲間として迎える事ができ、大変嬉しく思います。今年は桜の開花がずいぶん早く、今日まで持つかないと心配しておりましたが、まるで皆さんの入社を待って祝福するかのよう、晴れの入社式に華を添えました。

さて、今、日本が置かれている現状について少しお話しておきたいと思います。アベノミクスの影響で、景気の「気」の方はだいぶ回復してきておりますが、構造的には先進国の中でも抜きん出て少子高齢化が急速に進んでおり、企業の海外転出等、大きな転換期を迎えております。また、国・地方あわせ1000兆円以上も赤字が累積し、一歩間違えれば財政破綻に陥りかねない状況です。そして東日本大震災を契機に、エネルギー問題に対する考え方や社会のあり方、人の心の有り様、価値観、ライフスタイルにも大きな変化が起きていると思います。こうした大きな変革期にあたり、社会的使命を担う私たち放送局の存在価値がより一層問われる時代になってきています。

放送局の大きな使命は、報道機関として、公平、公正な立場で正確な情報を伝えるとともに、社会の問題点を深く掘り下げ「健全な民主主義社会の維持」に努めることです。災害報道などライフラインとしての責任も担っています。もうひとつの大きな柱は、ドラマ、バラエティ、スポーツ、映画、イベントなど、多様な面で人の心を豊かにする文化事業です。TBSは今年で、創業62年、テレビ放送を開始して再来年で60年を迎えます。TBSは基本理念として、放送事業を中核とした最強のコンテンツを創り出す、最良のメディアグループを目指しています。TBSは開局以来、『私は貝になりたい』『岸辺のアルバム』『金八先生』など、時代時代の社会状況に真摯に向き合っ心に響くドラマを放送してきました。また、バラエティでも『全員集合』や『ベストテン』など他局に先駆けて新しい番組を次々と生み出し、たくさんの人に笑いや、勇気、感動、そして心の癒しといったものを提供してきました。報道機関としても、今や当たり前となったキャスターニュースというスタイルを創り、視聴者の信頼を獲得してきました。我々の先輩は、悪戦苦闘しながらも先駆者的役割を果たしてきたと思います。そういう意味で「TBSらしさ」「TBSのDNA」は、『常に新しいものに挑戦するという先進性と、良質な番組を創る高い志』にあります。

今、ともすれば「どこも同じような番組ばかり」という批判を耳にします。震災後、視聴者の意識は大きく変化しています。この局は何を考え、何のためにこの番組を放送するのか。放送局の

存在価値が強く問われる時代です。私は昨年、社員全員に「日本の未来にとって一番責任感の強い放送局になろう」と呼びかけました。放送局は、国の行く末や、社会の有り様、人の価値観にまで、大きな影響を与えます。テレビを見ている子供たちの人格形成にも影響を与えます。高い視聴率を取ることも重要ですが、もっとも大事なことは、大きな影響力を持っていることを真摯に自覚して見る人の心に響く番組を作ることです。人の心を豊かにして、感動や生きる勇気を感じていただける番組を放送していくことこそが、結果的には視聴者の共感を呼び、TBS のブランド価値を高めていくことになるのだと思います。

次にテレビの将来について、お話しておきます。放送業界を取り巻く環境は、少子高齢化や企業の海外転出などにより、広告収入がかつてのように順調に伸び続ける状態ではない事は確かです。またデジタル化により、ネットやスマートフォンなど多様なメディアが登場し構造的な変化が急速に進んでいます。アメリカの3大ネットワークのひとつ CBS は、TBS とは長い提携関係にあります。その CBS に対し、アップルの創業者スティーブ・ジョブズ氏が、亡くなる前に「テレビ事業を一緒にやらないか」と、働きかけたそうです。これに対し、CBS のムンベス社長は、「あなたは、すべての物事を私より知っているが、テレビに関しては私の方が知っている」と答え、結局アップルとは組まず、アマゾンやネットフリックスなどのネット関連企業へ人気コンテンツを供給するなど独自のビジネスを展開し、現在もアメリカでネットワークトップの収益力をキープし続けています。これは、放送事業も優良なコンテンツを持っていれば、多様なメディアと連携して、収益を上げ、発展していくことが可能だということです。TBS も収入源の多角的拡大を目指し、「TBS オンデマンド」等のネットビジネスや、日経新聞と提携し、コンテンツの海外展開も積極的に推し進めています。メディア環境が大きく変化する今、皆さんの多彩な発想と新鮮な感覚を大いに期待しています。

皆さんは今日から社会人として新しい一歩を踏み出す事になりますが、放送局という公共の電波を預かる報道機関の一員となった訳です。「高い倫理観と厳しい行動規範」が求められる事を、しっかりと自覚していただきたいと思います。皆さんは、入社に当たって放送に対するさまざまな抱負を述べられました。会社ですから、最初から思い通りにはいきません。しかし、どうかその熱い情熱と志を決して忘れないで下さい。それこそが良い番組を作り出すみなもと、源泉となるからです。社員の皆さんの頑張りです。徐々にではありますが、視聴率も上向きになっています。「日本の未来にとって一番責任感の強い放送局」であり、最も愛され、信頼される、放送局を目指して、皆さんとともに頑張っていきたいと思います。

以上